

## 東洋紡株式会社 2022 年度 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2022 年 8 月 8 日（月） 17:00～18:00

場所：WEB 形式

説明者：代表取締役 専務執行役員 管理部門統括 大槻 弘志

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

### Q：原燃料価格高騰に対するフィルム製品の価格転嫁状況は？

A：製品価格への転嫁は進めているが、原料価格の値上げが現在も続いており、追いついていない。包装用フィルムは、22 年 3 月末時点の原料価格ベースで、お客さまと製品価格改定の妥結ができています。工業用フィルムは、価格転嫁が難しい業界であるが、異例の価格転嫁を打ち出した。どちらも、2 Q には反映される予定。

### Q：“コスモシャイン SRF”は、これまで需要減ということは無かったと思うが、2 Q 以降の見通しが厳しい理由は？

A：液晶パネルメーカーが在庫調整をしており、その影響を受けると予想している。特に 2 Q が厳しいだろう。

### Q：セラコン用離型フィルムの状況はどうか？

A：前年同期比でほぼ横ばい。増収にならなかった理由は、半導体の供給不足、上海ロックダウンによるスマホ減産の影響で MLCC メーカーが生産調整をしているため。3 Q から回復すると予想している。ただし、量を落としているのは汎用品で、ハイエンド品は堅調。

### Q：PCR 検査試薬の状況と、今後の販売見通しは？

A：21 年度 4 Q に対して、22 年度 1 Q は販売が減少した。ただし、新型コロナウイルス感染症の第 7 波により、足元の PCR 検査試薬の需要は非常に強い。5 月時点では、22 年度の販売見通しは、前年度比 5～6 割と説明していたが、7 割程度に留まるのではないかと予想している。

### Q：PCR 検査は、簡易抗原検査に取られてないか？

A：PCR 検査と簡易抗原検査は棲み分けをしている。確かに、簡易抗原検査数は急増しているが、PCR 検査数も増えている。

### Q：エアバッグ用基布の値上げは進んでいるか？黒字化するのはいつか？

A：価格転嫁に注力しているが、営業赤字を解消するレベルの値上げは出来ていない。タイの原糸工場が商業生産を開始し、稼働率を上げてフル生産になれば、利益を出せる事業構造になる。

### Q：「生活・環境」セグメントが前年同期比で減益となっている。不織布マテリアルはどのような状況か？ 本セグメントは、通期見通しを変更していないが、2 Q 以降に巻き返しはできるのか？

A：不織布マテリアルは、自動車減産と原燃料価格高騰が原因で減益となったが、2Q以降、価格改定を進める。また、東洋紡せんいによる衣料繊維の合理化、LIBセパレーター工場向けのVOC処理装置、高機能ファイバーなどの販売増により、通期見通しは達成できる見込み。

以上